
レインの過去～料理編～

風花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レインの過去〜料理編〜

【Nコード】

N4596K

【作者名】

風花

【あらすじ】

私が書いている『魔法少女リリカルなのは ETERNAL』のレインの過去の1つを書きました。
？の人はぜひ、ETERNALを読んで頂けると多分、納得します

（前書き）

レインの過去です
たいして本編に関係ありませんがレインがなぜ胃が丈夫なのかわ
かりますよ

レインの過去〜料理編〜

「そういえば、1つ聞きたいんだけど」

食事後、フェイトは唐突にしゃべりだした

「なんだ？」

「どうして、レインと森羅って咲夜のおにぎりが食べられるの？」

「た、確かにそうだよな…ちょっと、咲夜さんが怖いけど…」

少し青ざめながらもなのはもフェイトの質問に同意する
レインと森羅は少し、遠い眼をしながらも問いに答えた

「やっぱ…慣れだな」

「ああ。初めて食べた時は眩暈がしたからな」

「いや、お前は凄いや…なったって俺が初めて食った時は3日位寝込んでいたからな」

「何よ〜私のおにぎりがそんなにおいしくないって言うの？」

「おいしくない」

咲夜が文句を言うとレインと森羅は同時に同じ事を言って咲夜は少

しへこんだ

「そ、それじゃあ、レインはどうして初めて食べた時、眩暈だけで済んだの？」

フェイトが話題を少し変えて質問する

「それは……シスターのおかげ……なのだろうか？」

レインは疑問系で聞き返した。その問いは

「……こつちに振るな（聞かないで）」「……」

だった

レインは冗談だといいながら酒を煽った

「そっいゃ、酒もなんで飲めるのか気になるな。何でだ」

今度は森羅が質問する

「ああ、それは……」

約10～13年前

レインがまだ5～7歳くらいの頃

その頃はまだ平和でレインも今のような感じではなく元気いっぱいな少年だった

その日もレインは書庫で本を読んでいる時ちょうどシスターが書庫に入ってきた

「あつ！シスター。どうしたの？」

「あら、レイン。これから酒樽のようすを見に行こうとしたんだけどちょっと、お酒の名前を忘れちゃってね。ここに探しに来たの」

「サケダル？なんなのそれ」

「うーん…じゃあ、一緒に『お酒の名前』っていう文字が書かれた紙を探してくれたら教えてあげるわ」

「うん！いいよ」

そう言っで一緒に探した。探していた紙は簡単に見つかりレインは酒樽がある部屋に一緒について行った

酒樽がある部屋は他の部屋にない独特の香りに包まれていた

「なにか、とってもいいにおいだね、シスター」

「おっ、お酒の匂いがわかるのかい？」

「うーん…嗅いだ事ないけどとっても良い匂いがする」

「そう。それじゃあ、ちょっと飲んでみる？」

お酒が何なのかまだよく知らなかったレインはシスターの誘いに乗りお酒をもらった

「うわー。とってもきれい」

「そうでしょーこれで味がわかったら大人だね」

「大人？じゃあ、僕これを毎日飲む！」

「あっ！いつきはだめよ！」

そういうとシスターの忠告を無視しいつきにお酒が入ったコップを煽った

シスターはレインが倒れるかと思ったがその考えを無視しレインは飲み終わった後キョトンとしていた

「レ、レイン？」

「なあに、シスター」

そういった途端、キューンと眼を回しながらレインは倒れた
その後、レインはお酒のことをすっかり知り今度は酔わないと誓いながら飲み、そのたびに倒れたという…

「…こういった理由で俺は酒に強くなったんだ」

その言葉と共にレインは酒を煽った

「…それってただの無理やりだろう」

話を聞いた森羅は呆れながらもそう言った

「それじゃあ、おにぎりに対しては？」

フェイトがしつこく聞く

「…普段は神父が作っているんだが1週間に1度シスターが作るんだ。その料理が咲夜のおにぎりよりもやばかったんだよ…ご飯はただ炊くだけで黒コゲになるわ、物を焼けば炭焼きができるわ、失敗ばかりしているのにそれを食わせたからだと思うぞ……その頃はよく、皆で三途の川が見てたな」

レインはものすごく遠い眼をしながら答えた

「……」

その場にいた全員はただレインの過去が悲しいだけではなく危ないという事を知った

（後書き）

どうでしたか？

もし感想、意見をいただけるなら嬉しい限りです
本編もよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4596k/>

レインの過去～料理編～

2010年10月28日03時58分発行